

## 平成 29 年度日本赤十字社診療放射線技師会 中国・四国ブロック研修会 報告書

1. 日時：2017 年 12 月 9 日 14 時～17 時 50 分、10 日 9 時～12 時

2. 会場：松江赤十字病院 講堂

3. 参加者数：50 名

4. 開催概要

【会長講演】20 分

「日本赤十字社診療放射線技師会の現状と課題」

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦茂

【災害支援部講演】60 分

「日本赤十字社の原子力災害対策と診療放射線技師」

「原子力災害に対する行政の対策」

「原子力災害時の救護活動における診療放射線技師の役割」

災害支援部 駒井一洋（名古屋第二赤十字病院）

高本研二（松山赤十字病院）

【研修会企画】

「被災施設への放射線部門業務支援について考える」

・基調講演「被災経験施設からの考察」

神戸赤十字病院 浅妻厚

・特別講演「熊本地震病院支援を経験して～支援の連携とマネジメント～」

松江赤十字病院 看護師 野津栄子

・シンポジウム

一般撮影から 高知赤十字病院 小松克也

CT 検査から 徳島赤十字病院 矢野朋樹

MRI 検査から 高松赤十字病院 石井寛人

転職経験から 松江赤十字病院 岩田幸子

・グループワーク（グループディスカッション・成果発表）

【施設見学】 希望者

5. 内容

- ・ 研修会のメインテーマを「被災施設への放射線部門業務支援について考える」とした。
- ・ 日本赤十字グループでのコメディカル部門の災害時病院支援について今後本社と技師会とで推進されることから本テーマを取り上げた。
- ・ 基調講演では、23 年前の阪神淡路大震災での経験に基づいての考察を聴講した。この震災では放射線部門において業務支援が行われたのとの事であり、スタッフの少ない中小規模病院においては発災直後の急性期の業務支援が必要との事であった。
- ・ 特別講演では、東日本大震災と熊本地震で看護師として病院支援に参加された経験を

聴講した。実際の業務や生活環境、派遣にあたっての準備、コーディネータの重要性などの内容であった。

- ・ シンポジウムでは、はじめに一般撮影・CT・MRI 部門における業務支援の可能性と課題について発表していただいた。装置の違いへの対応、マニュアルの必要性、副作用など緊急時の対応、加えて MRI においては安全性に関する各種運用などが課題との事であった。次に、転職経験から他の施設で業務する事について考察をしていただいた。電子カルテや RIS については本質的に同じであるため、説明を受ければ大きな問題はないのではとの事であった。また装置が同じである場合であっても、細かい撮影法や手技が異なるので注意が必要であり、その場合の対応としてマニュアルが一助になるとの事であった。
- ・ グループワークは、一班 7 名とし 6 班に分かれあたえられたテーマに沿ってディスカッションを行い、結果を発表していただいた。テーマは、①支援を想定して自施設・自分自身が何を知っておきたいか、何をしておくべきか、②自施設が受援の立場として事前に何をしておくべきか、要望は何か、③施設業務支援体制を構築するにあたり何が必要か、とした。基調講演、特別講演、シンポジウムの内容を発展させ活発な意見が展開された。受援病院の診療体制として支援者が業務を行っている事を周知させておく必要があるとの意見もあった。また、非常時運用の構築が必要との意見もあった。

#### 6. 所感

- ・ 全体として共通性のある内容であり、活発な意見交換があった。グループワークでは班構成を年代別としたため、世代ごとの特徴を感じることができた。
- ・ 今回の研修会の内容が、今後の施設での取り組みや技師会での取り組みに反映されることを願いたい。

報告者 松江赤十字病院 加藤秀之